

三月十日

七時一〇分起床。八時二〇分京王線府中駅。八大建設西山社長と国分寺の邸へ。十二時半迄。十三時調布B邸現場。十三時四〇分駅近くで昼食ハヤシライス。サイエンス&ビジネスプログラム連続セミナーを準備室の主催で開講するプランを考える。十五時研究室。

調布B邸のオープンハウスを三月二十六日に行う事を決めた。B邸を設計する事になった機縁はこういう事だった。

稲田堤の星の子愛児園の現場帰りに、いつも気になる食堂らしきがあった。手作り山小屋風の建築で、屋根に極彩色の旗が何本も立っていた。旗はどうやらサツカーのFCトーキョーの旗で、店の名は「FCトーキョー・ラーメン」なのだった。興味津々だったが、その元気といえれば余りの元気ぶりに流石に私も気後れしてしまい、店には立ち寄りなかつた。が、どうしても中をのぞいて見たいという気持ちを押さえる事ができない。ある日、意を決して店に入ってみた。中も、FCトーキョー一色であった。人の良さそうな親父さんがいて、それがこの建築のクライアントのBさん。

仰天の連続で私はボー然自失で、店にカバンを忘れてきてしまった。

しばらくして、ごていねいな電話があつて

「お客さん、カバン失くしてませんか、私の店にありますよ。」
で、Bさんと知り合いになって、新築するアパートと自宅の設

計をする事になった。実にアクセシビリティであった。

設計もアクセシビリティがあつて、三階建ての当初案が銀行のお陰で二階建てにブチ切られる事になったり、色々あつた。予算が足りなくなつて、二階の自邸部分はBさんのセルフビルドの内装となった。研究室の学生達がそれを手伝つた。FCトーキョーの試合見物のオマケもついた。

それ故、この小建築は、要するにFCトーキョー・マニア・ハウスなのである。外階段にはスクリーンが吊され、FCトーキョーの試合は中継放映するという。デザインがどうだ、と言うよりも、これはFCトーキョー・ドキュメントの切断面の小建築である。それを楽しみにご覧下さればと思う。

十八時半、新大久保駅前近江屋にて 社長若松氏と会食。ロシヤの話し、その他。二十時四〇分頃迄。若松氏明後日よりモスクワとの事。ユーラシア・サイエンスビジネス準備室開設の主旨はそのまま発展させることとなる。只今二十一時京王線新宿。世田谷村へ戻る途中。木本一之さんより便り着いていた。石灯ろうの件、インターネットにオープンして良いとの事で、明日早速とりかかるつもり。このデザインは原理として本格的な新しさがあるので、広く知らしめたい。